

ー 宝塚市ゆかりのアーティストを紹介する『Made in Takarazuka』シリーズ第4弾 ー

建築10作品を原寸大の模型で体感できる建築展

みやもとかつひろ

企画展「入るかな？ はみ出ちゃった。～宮本佳明 建築団地」開催

Full Size is oversized: KATSUHIRO MIYAMOTO Architecture Park

会期：2023年9月16日（土）～10月22日（日）

会場：宝塚市立文化芸術センター 2階メインギャラリー（宝塚市武庫川町7-64）

宝塚市立文化芸術センター（所在地：兵庫県宝塚市/館長：加藤 義夫）は、2023年9月16日（土）から10月22日（日）の期間、国内外で活躍する建築家・宮本佳明が手がけた建築作品の一部を原寸大の模型で紹介する企画展「入るかな？ はみ出ちゃった。～宮本佳明 建築団地」を開催します。



従来の建築展のイメージを覆す展覧会を国内外で開催してきた建築家・宮本佳明（P3参照）が、今回も「展示室」という空間にとらわれない表現で構成する建築展です。

（写真左）「ゼンカイ」ハウス（1997）

（写真右）澄心寺庫裏（2009） Photo : Takumi Ota

本展は、宝塚ゆかりのアーティストを紹介する『Made in Takarazuka』シリーズ第4弾として開催するもので、今回は、宝塚を拠点に国内外で活躍する建築家・宮本佳明氏を取り上げます。これまで宮本氏が「建築とは記憶の器である」という考えに基づいて設計してきた建築作品の中から選ばれた10作品について、写真や図面、スタディ模型に加えて、原寸大の模型を用いて紹介します。2階メインギャラリーの壁をすべて取り払い、1つの敷地として見立て、そこに建築団地が「建設」されます。本展は、観る者の想像力を喚起する展覧会です。概要は次頁の通りです。

▼『Made in Takarazuka』シリーズについて

宝塚市立文化芸術センターは、宝塚市内の芸術家にスポットを当てることを目的に、2020年度から宝塚市ゆかりのアーティストを紹介する『Made in Takarazuka』シリーズを展開しています。

<これまでに同シリーズで開催された展覧会>

第1弾「辻 司 七〇年の絵路 ―メアンドロの光芒―」（2020年11月14日～12月20日）

第2弾「中辻悦子展―WHO IS THIS? あなたは、誰れ―」（2021年9月4日～10月11日）

第3弾「松井桂三展|化学反応実験」（2022年4月14日～5月14日）

《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE:090-6065-0063(馬場) 090-5667-3041(永井)

 TEL : 050-1807-2919 FAX : 06-6231-4440 E-mail : takarazuka@tm-office.co.jp

開催概要

展覧会名：「入るかな？ はみ出ちゃった。～宮本佳明 建築団地」

(英文) Full Size is oversized: KATSUHIRO MIYAMOTO Architecture Park

会期：2023年9月16日（土）～10月22日（日）

休館日：毎週水曜日

開館時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

会場：宝塚市立文化芸術センター 2Fメインギャラリー

（〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-64）

公式WEBサイト <https://takarazuka-arts-center.jp>

観覧料：一般（高校生以上）1,000円

※中学生以下無料

※障がい者手帳提示でご本人様、付添の方1名まで無料

問い合わせ：宝塚市立文化芸術センター TEL:0797-62-6800

主催：宝塚市立文化芸術センター（指定管理者：宝塚みらい創造ファクトリー）

協賛：総合資格学院、株式会社東畑建築事務所、公益財団法人戸田育英財団、
株式会社ナカミツ建工

協力：株式会社フリックスタジオ

後援：神戸新聞社



関連イベント

◆ アーティストトーク 宮本佳明が宝塚と自身を語る

宝塚出身で現在も宝塚在住である宮本氏が、宝塚市と自身について語ります。聞き手は宝塚市立文化芸術センター館長・加藤義夫です。

語り手：宮本佳明（建築家）／聞き手・進行：加藤義夫（宝塚市立文化芸術センター館長）

日時：2023年9月24日（日）14:00～15:30

会場：宝塚市立文化芸術センター・庭園内ガーデンハウス

定員：40名（要整理券）

※当日、展覧会入場受付にて整理券を配布（パートナー会員証または入場券購入が必要です）

◆ パートナースalon 「建築団地」をめぐって

宝塚市立文化芸術センターの設計を担当した株式会社東畑建築事務所 代表取締役社長の米井氏をゲストに迎え、「建築団地」をめぐってトークを繰り広げます。

対談：宮本佳明（建築家）× 米井寛（よねいゆたか・株式会社東畑建築事務所 代表取締役社長）

日時：2023年10月14日（土）14:00～15:30

会場：宝塚市立文化芸術センター・庭園内ガーデンハウス

定員：30名（要予約） ※2023年度パートナー会員限定、当日入会可（年会費2,000円）

申込受付開始：2023年9月1日（金）10:00より

宝塚市立文化芸術センターのWEBサイト <https://takarazuka-arts-center.jp> よりお申込みください。

宮本佳明（みやもとかつひろ）プロフィール

- 略歴
- | | |
|-------|--------------------------|
| 1961年 | 兵庫県宝塚市生まれ |
| 1984年 | 東京大学工学部建築学科卒業 |
| 1987年 | 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了 |
| 1988年 | アトリエ第5建築界設立 |
| 1995年 | 大阪芸術大学建築学科専任講師 |
| 1999年 | 大阪芸術大学建築学科助教授 |
| 2002年 | 設計組織を株式会社 宮本佳明建築設計事務所に改組 |
| 2008年 | 大阪市立大学大学院工学研究科教授 |
| 2021年 | 早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科教授 |



○主な受賞歴と受賞作品

- | | |
|-------|---|
| 1996年 | 第6回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展（イタリア）金獅子賞【日本館展示「震災の亀裂」】 |
| 1998年 | 日本商環境設計家協会（JCD）デザイン賞'98 ジャン・ヌーベル賞【「ゼンカイ」ハウス】
1998年度日本建築家協会（JIA）新人賞【「ゼンカイ」ハウス】 |
| 2007年 | 第53回大阪建築コンクール 大阪府知事賞【クローバーハウス】
平成19年日本建築士会連合会賞 優秀賞【クローバーハウス】
日本建築家協会賞【クローバーハウス】 |
| 2008年 | JCDデザイン賞2008 金賞【「ハンカイ」ハウス】 |
| 2009年 | 第55回大阪建築コンクール 大阪府知事賞 特別賞【「ハンカイ」ハウス】 |
| 2010年 | 平成22年日本建築士会連合会賞 優秀賞【澄心寺庫裏】 |
| 2011年 | 日本建築学会 作品選奨2012【澄心寺庫裏】 |
| 2012年 | 第20回愛知まちなみ建築賞 大賞【birdhouse】 |
| 2015年 | 歯科医院デザインアワード2016 グランプリ【tooth】 |

◆展覧会へのメッセージ（宮本佳明）

建築の展覧会は、アートの展覧会とは異なり、建築実物の展覧会ではありません。多くの場合、ドローイング、模型、写真といった副次的なマテリアルによって実物の建築を表現します。それに対して本展覧会では、複数の原寸大の建築模型（モックアップ）を製作し、それらがレリーフのように壁や床の至るところから浮かび上がるという展示を試みたいと思います。

製作する原寸模型は建築物の一部分に過ぎませんが、鑑賞者の想像力を借りることによって、壁や床の向こう側に建築空間の全体像を浮かび上がらせることが出来ると考えています。いわば展示室からはみ出る展示です。多くの建築物が展示室という一つの「敷地」に建つことから、「建築団地」と名付けました。

▼宮本佳明と建築展

自身も阪神・淡路大震災を経験した宮本氏は、全壊判定を受けた生家を修復し、「ゼンカイ」ハウスと名づけ、現在もアトリエとして使用しています。1996年の第6回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展では日本代表作家に選出され、約20トンもの震災の瓦礫を宝塚から輸送して、日本館の床一面に積み上げたインスタレーションを展開。最高賞であるパビリオン賞（金獅子賞）を日本館として初めて受賞しました。

2005年の「巨大建築模型ミュージアム～環境ノイズエレメントを解読し、都市を設計せよ～」(KIRIN PLAZA OSAKA/大阪)では、建築や地形の模型を床、壁、天井すべての面を用いて圧倒的な物量で高密度に展示。それらの模型は、書籍『ケンチク模型。宮本流』（2007年、彰国社）にも収録されています。

2013年のあいちトリエンナーレでは、「福島第一原発神社」、「福島第一さかえ原発」を出品。原子炉建屋が愛知芸術文化センターにすっぽり収まることに着目し、同センターの地下2階から地上10階までの全フロアを使い、同原発の原寸図面を描くことで、原発の大きさを来場者が体感できる展示になりました。

1. 圧巻！建築10作品を原寸大で体感できる「建築団地」

通常の建築展は、小さな模型や写真、図面で建物を紹介するものが主流です。

しかし本展では、建築物の特徴的な部分を原寸大の建築模型として展示。実際のスケール感や建築のボリュームを、まるで現地にいるような感覚で体感することができます。

展示作品は、「建築とは記憶の器である」という考えのもと、宮本氏が設計してきた建築から、10作品をチョイス。その種類は、住宅、寺院、美容室、モニュメントなど多岐にわたります。

2. 建築家の思考を追体験！設計現場で活躍する「スタディ模型」を展示

建築設計の初期段階で、設計内容を検討するためにつくる簡易な「スタディ模型」も展示。デザインの変化など、建築の完成への過程を立体のビジュアルで追うことができます。三次元CADや3Dシミュレーションが登場した現在でも、情報量が多い「スタディ模型」は設計の現場で活躍しています。建築家が頭の中でイメージを固める過程を、どんどん進化する模型の展示によって、追体験できます。

3. 展示作品すべての写真撮影が可能

会場はすべて写真撮影、SNSへの投稿OK。まるで現地に行ったかのように、原寸大の建築模型の写真をとることができます。壁や床からレリーフのように浮かび上がる建築模型は、鑑賞者だけではなく、SNSの閲覧者の想像力も刺激することでしょう。

4. 「ゼンカイ」ハウスを、見学者に公開

宮本氏のアトリエは、1995年に発生した阪神・淡路大震災で全壊判定を受けた、築120年の自宅長屋を修復したもので、「ゼンカイ」ハウスと名づけられています。数々の賞を受賞し、宝塚市国際観光協会の「宝塚100選」にも選出された同市のランドマーク的存在で、現在も日本中の建築家や建築学生が見学に訪れています。本展会場から徒歩約10分の距離にある「ゼンカイ」ハウスを会期中、特別に一般公開します。「ゼンカイ」ハウス公開についての詳細は後日、公式ウェブサイトに掲載します。

5. 進行中の最新作「北九州市立埋蔵文化財センター」も紹介

本展会場に隣接する「2Fホワイエ」では、宮本氏が現在たずさわる「北九州市立埋蔵文化財センター」を紹介する展示を予定しています。宝塚に長く住んだ建築家で文化勲章受章者である村野藤吾の設計で、日本初の市民会館である「八幡市民会館」をコンバージョン（用途転用）するこの試みは、宝塚市立文化芸術センターの設計を担当した東畑建築事務所と、宮本佳明建築設計事務所との設計共同体として、業務が進行中です。

展示する10件の建築作品のご紹介

今回の展示では、宮本佳明氏が手がけた代表的な10の建築の一部分を、1/1の原寸模型で展示します。以下、建築物の概要と宮本氏のコメントをご紹介します。

01 「ゼンカイ」ハウス

<宮本佳明氏 コメント>

阪神淡路大震災で全壊判定を受けた築120年の自宅長屋を修復した。文化財的価値を持つものでなくとも、建築は常に「記憶の器」としての側面を持つ。既存の木造軸組はそのままに、そこに鉄骨の新たな構造体を併置して耐震性の向上を図った。生活の支障にならないスペースを選んで鉄骨を通し、木造軸組を随所で安定した新しい鉄骨フレームに緊結することで、徐々にその荷重を鉄骨に預け替えてゆこうという試みである。木造軸組はいずれ構造体としての役目を終え、住まい手と震災の記憶を留めた造作となって生き続けることになる。

所在地	兵庫県宝塚市
用途	アトリエ
竣工年	1997年
延床面積	89㎡
構造／規模	木造、S造／地上2階



02 南芦屋浜団地コミュニティ&アート計画 "Sacrificatio"

<宮本佳明氏 コメント>

震災の被災者向けに埋立地に建設された住宅団地のなかに、古い防潮堤に姿を借りた海岸線の遺跡のような構造物をつくった。400mにわたって断続するコンクリートの塊に土地が持つ時間を負の記憶も含めて内包し、新しい埋立地のなかで居住者の生活の背景となることを願ったものである。「防潮堤」は消えた海岸線と海面を可視化して、そこがかつて海であったことを想起させる。雁行する「防潮堤」の配置は、幾重にも重なった六甲の山ひだの気配を増幅する。そして皮肉にも、それは震災を引き起こした活断層と平行することを意味している。

所在地	兵庫県芦屋市
用途	モニュメント
竣工年	1998年
敷地面積	42,000㎡
施工面積	4,234㎡
構造／規模	RC造／全長約400m



Photo : Kazuo Fukunaga

03 SHIP

<宮本佳明氏 コメント>

3mの段差を持つ上下二段に造成された敷地に建つ住宅である。下段の信頼性の高い地盤を選んで基礎を設置し、そこから擁壁を飛び越えて眺めのよい上段上部にリビングのヴォリュームを浮かべている。

一方、個室については落ち着いた雰囲気の下段に配置し、張り出したヴォリュームと構造上のバランスをとっている。湾曲した壁の平面形状は「く」の字に折れた敷地形状に呼応したもので、12mm厚のコールテン鋼*板を溶接してつくっている。船と同様のシームレスな構造体によって、大きく張り出したヴォリュームを効果的に支持している。

コールテン鋼*：別名、耐候性鋼。無塗装で使用してもほとんど錆びず、また安定した錆が表面を覆うことで腐食が鋼材内部にまで進行しない。

所在地 兵庫県西宮市
用途 専用住宅
竣工年 2006年
延床面積 112㎡
構造／規模 鉄板造、RC造／地下1階、地上2階



04 クローバーハウス

<宮本佳明氏 コメント>

宅造地盤面と擁壁を掘削してつくった住宅である。上部が吹抜けた地下室の上に採光を担うガラスボックスを重ねて居住空間としている。原理的には、掘削によって空間は自由に造形可能である。

ここではクローバー型に掘り出された天井高4.6mのホールが家族共有のスペースであり、壁の湾曲によってダイニング等さまざまな性格のスペースが生まれている。さらにホールから横穴状に掘られたボックスが、個室や水回りのスペースとなる。宅造地盤レベルにできた、クローバー型とネガポジ反転の関係にあるロフト状のくぼみが寝床である。

所在地 兵庫県西宮市
用途 専用住宅
竣工年 2006年
延床面積 76㎡
構造／規模 鉄板造、S造、RC造／地下1階、地上1階

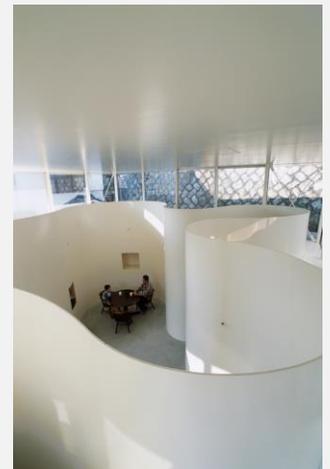


Photo : Toshihiro Sobajima

05 gather

<宮本佳明氏 コメント>

低層高密度市街地に建つ木造住宅の増改築プロジェクトである。建ぺい率オーバーという違法状態の解消のため最初に大きく減築し、改めて増築を行って3つの坪庭を設けた。そして約1,000本、直列に並べると全長2.8kmに及ぶツバイフォー材で構成する「うねる面格子」によって、耐震補強、収納、採光・通風・視線のコントロールといった機能上の問題すべてを一挙に解決している。面格子は面内あるいは面外の両方向に微妙に傾き、また羽根の回転角にも変化を持たせながら、室内・室外に関係なく連続して空間をインテグレートしている。

作品名 gather
所在地 大阪府大阪市
用途 専用住宅
竣工年 2009年
延床面積 115㎡（増築部分：4㎡）
構造／規模 木造／地上2階



06 ちゅうしんじ 澄心寺庫裏

<宮本佳明氏 コメント>

隣接する法堂(はつとう)や客殿の屋根と同じく、新しい庫裏の屋根も少なくとも100年は存続し、愛され続けることを目指した。それは屋根がお寺を訪れる全ての人々の想いを受け止める「記憶の器」となることを意味する。鉄筋コンクリート造の大屋根は、言わば宗教空間のインフラストラクチャーである。屋根の下には、積雪荷重から解放され機能の変化にも柔軟に対応する軽快な木造軸組をインフィル*として組み上げている。大屋根は麓の集落からもよく見えて、コモンの存在を伝えるアイコンとなり、地域住民とお寺を繋ぐ役割を果たしている。

インフィル* : スケルトン (構造躯体) の対語として、そこに設えられる内外装や設備のことを言う。

所在地 長野県上伊那郡箕輪町
用途 寺院庫裏
竣工年 2009年
延床面積 226㎡
構造/規模 RC造、木造/地上2階+ロフト

Photo : Takumi Ota



07 elastico

<宮本佳明氏 コメント>

土木とは躯体そのものである。建築は、通常、躯体と仕上げのふたつから構成されている。一方、インテリアとはほぼ仕上げそのものである。そう考えると間仕切壁という中途半端な存在が、躯体を欠いた「皮」のように感じられた。つまり「骨抜き」である。この美容室では、鉋物質の鈍い輝きを放つ黒皮鉄板1枚で間仕切壁を形成している。言わばインテリアの打ち放しである。パロックの伸びやかさとダブルクリップのような弾力感を求めて、全長36m、押せば揺れる2.3mmの厚鉄板に、街並をインテリアに引きむようにキッチュ*なレンガ模様を卦書いた。

キッチュ* : インチキで安っぽいものを意味する。ここでは既存外装のレンガタイルの模様を鉄板に傷を付けて表現している。

所在地 兵庫県西宮市
用途 美容室
竣工年 2010年
延床面積 83㎡
素材/規模 鉄板/地上1階



Photo : Takumi Ota

08 真福寺客殿

<宮本佳明氏 コメント>

用水路に規定されたD型の敷地に対して、周辺部に僧侶控室、台所、トイレといった小部屋群を鉄筋コンクリート造の耐震要素としてバランスよく配置することによって、中央部に大棟と小棟2つの入母屋が連続する大屋根を浮かせている。大棟の下は130戸の檀信徒全てが一堂に会することができる無柱無梁の大広間である。大広間上部には大棟の懐を利用して細かい木格子天井を組み、大空間のスケールを調整している。長く延びる縁側は玄関の延長として利用されるが、日当たりも良く普段は地域に開かれたカフェのように使われることを想定している。

所在地 長野県上伊那郡辰野町
用途 寺院客殿
竣工年 2013年 客殿、2014年 お通夜部屋増築
2016年 納骨堂内装
延床面積 458㎡
構造/規模 RC造、S造/地上1階



Photo : Takumi Ota

09 香林寺ファサード改修

<宮本佳明氏 コメント>

旧甲州街道沿いに建つ都市型寺院に新たに付加されたファサードである。限りある敷地の中で、一枚のコールテン鋼板に唐破風、宗紋、銀杏、花頭窓といったお寺らしい文様をパンチング加工して「厚みのない山門」をつくった。鋼板の厚みはわずか2.3mmである。新たに「山門」を設けることにより、鰻の寝床状の敷地はより奥深くなり、山門から本堂に至る長い道行きを「参道」として捉え直すことが可能になった。山門は街路に向かって大きくオーバーハングして雨宿りの出来るポケットパークを提供し、夜には行灯のように街路を照らし出す。

所在地 東京都八王子市
用途 仏教寺院
竣工年 2015年
延床面積 397㎡（増築面積0㎡）
構造／規模 S造



Photo : Takumi Ota

10 こまめ塾

<宮本佳明氏 コメント>

クライアントの義父が自ら積み上げた補強コンクリートブロック造のりんご園の監視小屋に本格的な耐震補強を施して、学習塾、託老所、生活クラブ生協のステーション等の複合機能を持った地域のcommonsへとコンバージョン（用途転用）を行った。外部に大きく飛び出した鉄骨の構造体の下には、中間領域的な気持ちのいい居場所が生まれた。家族の記憶が宿る既存の躯体や仕上げについては極力手を加えずあえて痕跡として残し、新たな要素をその上に描き重ねることによって、新旧の素材の対比が新しい風景をつくり出すことを意図した。

所在地 長野県松本市
用途 学習塾、託老所、生協ステーション、
ランドスケープ等
竣工年 2019年
延床面積 141㎡
構造／規模 鉄筋による補強CB造の補強／地上2階

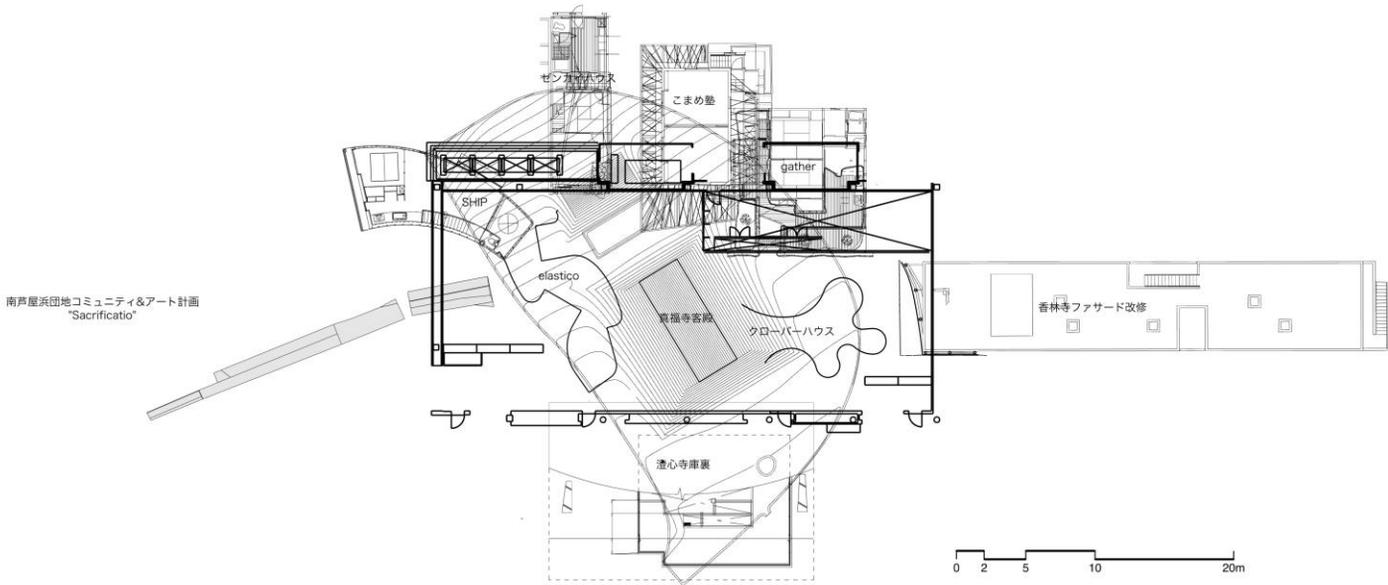


Photo : Takumi Ota

展示レイアウト

展示レイアウト

資料提供：早稲田大学宮本佳明研究室



◆広報用画像貸出について

本プレスリリースに使用している画像は、広報用素材として貸出いたします。
以下のフォームより申請ください

申込フォーム：<https://forms.gle/LhjrL29hq7mVA4T3A>



◀フォーム
QRコード

《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE:090-6065-0063(馬場) 090-5667-3041(永井)

TEL：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-mail：takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センター公式WEBサイト

URL <https://takarazuka-arts-center.jp>



◀アクセス
QRコード